

七友会 だより

追悼 砂山克彦先生

七友会副会長 菊地 良一

故砂山克彦先生の追悼の文章を書くにあたり、学生の頃の記憶をいろいろと掘り起こしてみました。しかしながら、卒業して30年余が過ぎて記憶のあいまいなところ、あるいは勘違い等があるかもしれませんので、そのへんはご容赦ください。

当時の社会科学コース法学研究専攻では、3年次以降に演習（いわゆるゼミ）を履修することが求められていました（ほぼ必修）。私は、労働法と憲法を候補として考えていました。しかしながら、労働法の砂山先生が米国に1年間留学することになり、憲法ゼミを選択しました。

そして4年生の時に、砂山先生の労働法ゼミで勉強させてもらいました。出来の悪い学生だった私は、通常1年でよいゼミを、さらに1年間勉強させてもらいました。労働法のゼミは、砂山先生の人柄と専攻する人数が少ないこともあってか、私だけでなく、もう2名の留年組が同様に単位無しで勉強していました。

少人数のゼミでは、必ず何度か発言せざるを得ない環境でした。人前で自分の意見を多少は臆しながらでも言えるようになったのは、ここで訓練されたからではないかと思っています。

また労働法ゼミはアットホーム的で、文字通り先生のご自宅にゼミのメンバー皆で招かれたことを記憶しています。今思えば、東松園に自宅を新築されて間もない頃でした。

また、卒業見込みとはいうものの公務員試験を受ければ二次試験で落ち、民間企業は面接しても落ち続け、就職活動にまいちやる気なくなった私に、砂山先生の普段の穏やかな口調からは想像がつかない「叱咤激励」もいただきました。「ここ受けてみなさい」といくつかの企業も紹介していただきました。そのかいあってか就職も決まり、卒業式のあと先生の研究室で、前述の留年組で撮った写真がいまも手元にあります。

砂山先生と最後にお目にかかったのは、先生が人文社会科学部長在任時の2008年の岩大開学記念の園遊会でした。開口一番「ちゃんと仕事してるか。名刺見せなさい」と昔と変わらぬ穏やかで朴訥な口調で問われました。さては出来の悪い学生が、真面目に働いているかチェックかなと思いながら、名刺を渡しました。そして「あまり偉くなってませんが、真面目に仕事してます」と心の中でつぶやいておりました。

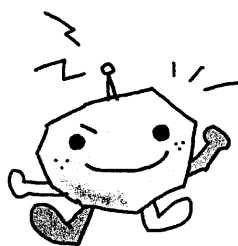
砂山先生の葬儀の際、今野順夫先生（福島大学前学長）が弔辞で、「新潟県出身と関係あるかどうかわかりませんが、本当にストレートしか投げないピッチャーのように、いつも正攻法の生き方から、学ばせられました」と述べられていました。そうか、私も変化球は不得手だ。親に似た気もするが、砂山先生からも少しは学んだのかもしれない。そう思いました。

先生の早すぎる死はとても残念です。ご冥福をお祈りいたします。

不肖の教え子より。

目次

| | |
|--------------------------|---|
| 追悼 砂山克彦先生 | 1 |
| 定年退職にあたって 吉村 泰樹 | 2 |
| 「進路選択セミナー」 開催報告 | 3 |
| 会員のみなさん、連絡 先をお知らせください | 4 |
| 「学部就職ガイダンス」 開催 | 4 |
| 同窓生が司法試験合格 | 4 |
| 新学長選出 | 4 |
| ご退職される先生方 | 4 |
| 平成26年度評議員会 | 4 |



定年退職にあたって（無事これ迷馬？）



環境科学課程 吉村 泰樹

人文社会科学部は、昭和52年5月に教養部を改組して設立されました。私は、その翌年昭和53年4月に採用していただき、この（平成26年）3月末で定年退職を迎えることとなります。私が着任した当時、大学教育は教養課程と専門課程に分かれ、卒業するためにはそれぞれの課程で定められた最低単位数を習得する必要がありました（大学設置基準）。入学した学生は、いずれの学部であっても1年半は教養課程に在籍し、所定の単位数を習得することで専門課程（それぞれの入学学部）に学籍を移す（移籍）というしくみになっていました。その教養課程における教育（岩手大学では一般教育と呼んでいました）を担当していたのが教養部です。当時、教養教育の充実を図ることを一つの目的として、教養部を専門課程も担当する学部へ改組する動きがあり（例えば広島大学総合科学部）、岩手大学では総合科学部から自然科学分野が欠落した形、すなわち地域文化コースと社会科学コースから成る人文社会科学部として改組されました。私は、基礎自然科学講座に属して、着任からしばらくは一般教育の自然科学分野だけを担当していました。しかも、理科系学生を対象とする必修「化学」だけを担当し、文科系学生を対象とする選択「化学」は担当していませんでした。したがって、この期間、残念ながら人文社会科学部の学生の皆さんとは接点を持つことができませんでした。

平成3年に、教養課程を廃止し卒業に必要な総単位数だけを規定する、という内容を含む設置基準の改正（設置基準の大綱化）があり、多くの大学で、教養部の廃止と教養部教員の他学部への配置換えという事態が起こりました。岩手大学では、すでに人文社会科学部に改組することで教養部は廃止されていましたが、平成5年4月に、地域文化コースにも社会科学コースにも属していなかった、科学論講座と基礎自然科学講座とで「環境情報科学コース」を設置することになりました。私が人文社会科学部の学生の皆さんとの接点を持ったのはこの時が最初になります。この時期、文科系の学生に化学をどのように教えればよいのか、とまどいながら教育にあたっていたこともあって、当時の環境情報科学コースの学生の皆さんには「わかりにくい」講義だったものと申しわけなく思っています。

平成9年あたりから、設置基準の大綱化が結果的に惹き起こした教養教育の衰退が全国的に問題視され、「教養教育の全学担当体制」が盛んに取沙汰されるようになりました。岩手大学でも、大綱化後も人文社会科学部が一手に担当していた一般教育を、「教育協議会」という全学組織のもとでの運営に移すなどの大きな動きがあり、その一環として、平成12年4月に人文社会科学部は現在の4課程制に改組されました。私達自然科学教員は、新たに加わった文科系教員とともに「環境科学課程」を立上げ、環境問題を理科系と文科系の区別なく総合科学として教育研究することとなりました。私は、環境情報科学コースの時代から、「学生諸君には、化学を通して身のまわりや自分自身を見つめなおすことで全く新たな見方に触れる、という経験を持ってもらいたい」と漠然と考えていました。環境科学課程立上げと同時に、「環境科学入門Ⅰ」というオムニバス科目において、「地球の自然環境の進化と生命の誕生及び進化との相互作用」という内容を担当することになり、その準備学習を進める過程で、「生きている」ことを化学の眼でみるとどう理解できるのかを改めて学習する機会を持ちました。学生時代に一度学習していたのですが、その時にはあまり興味が持てなかったと同時によくわからなかった分野でした。この再度の挑戦で、学生時代よく理解できなかったのは、自分自身の中で化学を細分化してしまい、互いを関連付けて全体としてみることでできていなかったことに原因があった、ということに気がつきました。この時の経験が、化学の立場から環境問題を扱う際、環境科学という大きな枠のどこに位置づいているのかを常に意識して環境教育を実践することの重要性を教えてくれたと考えています。

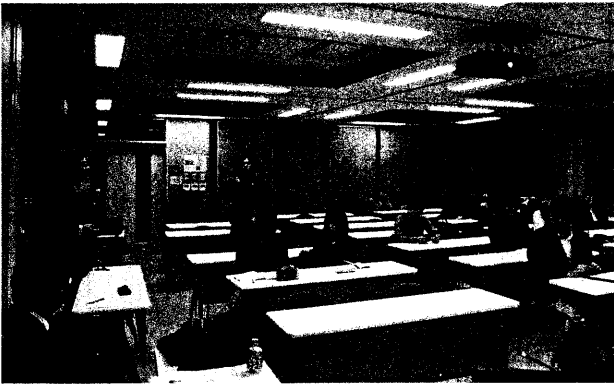
今、こうして岩手大学での30有余年を振り返ってみると、大きな変化の波間で浮き沈みを繰り返してきたという思いと同時に、不十分ながらもやるべきことはやろうとしてきたという思いもあります。この先30年後、どういう思いを持って振り返ることになるのか？楽しみであると同時に不安でもあります。

「進路選択セミナー」開催報告

(主催：七友会・学部就職委員会)

今年度2回目となる「進路選択セミナー」は、平成26年2月7日(金)、学生センターB棟多目的室で開催されました。このセミナーは、同窓会と学部就職委員会が共催するもので、学生に将来の進路を考える際の何かの参考になれば…という思いから開催するものです。全学年を対象として、自由参加で行っていますが、今回は会場の都合等もあり、予定より1時間遅い18時10分開始となりました。

今回は中村喜一氏(尙くらし建築工房)、高屋一成氏(こうや呉服店)、田屋薫氏(家庭裁判所調査官)、田中広江氏(尙アイドカ)の盛岡在住の4名の方々に講師をお願いしました。奇しくも中村、田中両氏は、就職活動の際、「10年後には独立・起業したい」と自分の考えを伝え、それを良しとして採用された会社でがんばったこと、地元への感謝や貢献という考えを持って起業し、会社を長く存続させることが地元への恩返しだと考えていることなど共通点もあり、学生には、単に職業を知ること以上の刺激があったようです。また、田屋氏の話は、普段聞くことのない内容でもあり、調査官という仕事に興味を持った学生も多かったようです。就職後に、3代目として家業の呉服店を継いだ高屋氏の話にも「人との出会いや「目標を持つこと」が出てきて、このことがフリートークでも取り上げられ、熱い意見交換が行われました。



フリートークには、4名の講師の他にオブザーバーとして、佐藤伸樹氏(防衛省)足立慎悟氏(株オリエント)の2氏も加わり、様々な質問に答えていました。今回は学生の参加が14名と少なめでしたが、2年生の参加もあり、進路に悩みながらも様々な話を聞いて、違った視点から、自分の道を探ろうという考えの変化が感じられ、有意義なものになったようです。

(司会・進行) 佐原

<参加学生の声(抜粋)>

- ・ 社会人の方の生の声を聞くことができ、参加してよかった。
- ・ 今まで来れなかったことを後悔した。「起業」という新しい視点がみつかった。
- ・ 自分の進路に不安を感じ悩むことが多かったが、参考になった。
- ・ いろいろ挑戦してみようと思いました。
- ・ 自分はまだまだ視野が狭かったなあと思いました。もっと、たくさん考えようと思います。
- ・ 自分に足りない所がわかった気がします。

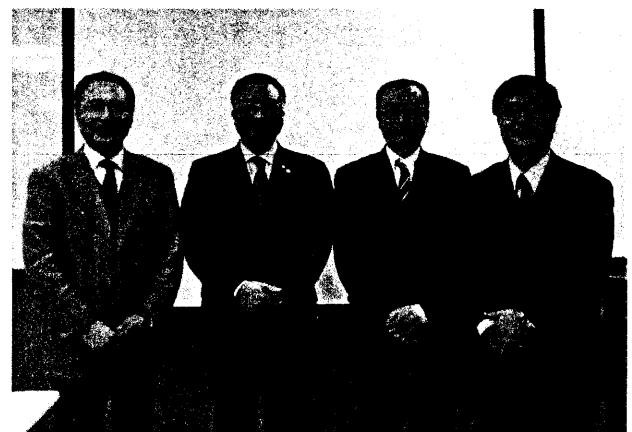
<要望>

- ・ 女性の方の話も聞きたい。
- ・ 質問の時間(フリートーク)をもっと長くしてほしい。
- ・ これからも続けてほしい。
- ・ ライターの方がいたら聞きたい。

次回は…

平成26年6月13日(金)を予定しています。

詳しくは、6月上旬に学内に掲示されます。
参加は自由。時間は概ね、17時から20時までを予定しています。



今回の講師の方々です。

左から 中村喜一さん、田中広江さん、高屋一成さん、田屋 薫さん

講師やオブザーバーで参加・協力できる方は
事務局にお知らせ下さい。

TEL & FAX 047-336-3945

E-mail: jimu@jinsya.com

会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部の発展及び同窓生の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※ 友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐに事務局までお知らせ下さい。

連絡先情報

| | | | | | |
|--------------------|----|-----------------|---|----------------|-----------|
| ふりがな | 卒業 | 期 (S H 年) | 年 | 月卒 | 封筒にある整理番号 |
| 氏名 (男・女) | 専攻 | (コース 科) | | 研究 室 ゼミ等 | No. _____ |
| 現住所 〒 | | | | | |
| (自宅) TEL FAX | 携帯 | 勤務先名等 (可能なかぎり) | | | |
| E-mail | | | | | |
| 家族等連絡先 〒 | | | | | |

「学部就職ガイダンス」開催

就職活動にはいる3年生や院生を対象とした「学部就職ガイダンス」が去る、平成25年11月12日(火)に開催されました。第一部は第1期生で、マニュアル生命保険(株)盛岡営業所長の堀浩樹氏の講演がありました。堀氏は自身の仕事や家庭での様々な体験を踏まえて、仕事に対する意識のあり方、特に仕事を楽しくするのも、つまらないものにするのも心がけと工夫次第だと、熱く語りました。第二部は、立食形式でおこなわれ、内定を得た4年生4名の体験談を聞くとともに、自由な意見交換も行い就職活動への気持ちを高めました。第一部には約70名、第二部には約50名の学生が参加しました。

★ 同窓生が司法試験に合格

すでに御存知の方もいると思いますが、平成25年9月10日に司法試験の合格発表があり、同窓生の三浦孝司さんが合格されました。

三浦さんは平成17年度、人文社会科学部法学・経済課程に入学し法学コースの内田先生のゼミに所属。平成21年3月、人文社会科学部を卒業し、新潟大学法科大学院(末習者コース)へ進学しました。

平成24年3月、同法科大学院を修了し、今回の合格となりました。同窓生初の司法試験合格を祝うとともに、今後の活躍を期待したいと思います。

新学長に 堺茂樹(63)工学部教授選出される

昨年12月に行われた岩手大学学長選挙において、堺茂樹工学部教授が新学長に選出されました。会見では「真理を探求して、その知を集積し、それを背景にした教育で有為な人材を世に送り出すのが大学の使命であり…震災からの復興や地域再生を担う人材の育成にもつとめたい…」と抱負を語りました。任期は平成26年4月1日からで、新たな学長の元で、岩手大学はどのように進んでいくのでしょうか？

3名の先生が退職されます

今年度末で定年退職される先生は、次の3名の方々ですが、奇しくも、みな環境科学課程の先生方です。先生方には、同窓会より記念品を贈るとともに、会報への寄稿をお願いしています。

順次掲載予定です。

- ・河田裕樹 教授(環境科学課程)
- ・吉村泰樹 教授(環境科学課程)
- ・三浦康秀 教授(環境科学課程)

なお、3教授の最終講義は以下のとおりです。

日時：平成26年3月6日(木) 13:00~16:40

場所：人文社会科学部 2号館1階 211講義室

演題：河田裕樹 教授「光と退色」

吉村泰樹 教授「岩手大学での生活を

ふり返って」

三浦康秀 教授「数学の教育研究と音楽」

平成26年度 評議員会は 6月14日(土)開催予定です。

5月下旬には正式決定しますので、詳しくは、ホームページ(jinsya.com)あるいは、事務局までお問い合わせ下さい。

<訂正>

会報37号 4ページ 「平成25年度 会計予算」の特別会計 <歳出>2-4)を、同窓会設立40周年記念積立と訂正します。

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>
 (郵便宛先) 020-8550 盛岡市上田3-18-34
 岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
 (事務局) Tel(留守録) & Fax : 047-336-3945
 E-mail : jimuj@jinsya.com

ホームページもご覧ください!
<http://www.shichiyukai.net/>
<http://www.jinsya.com/> [関東支部]